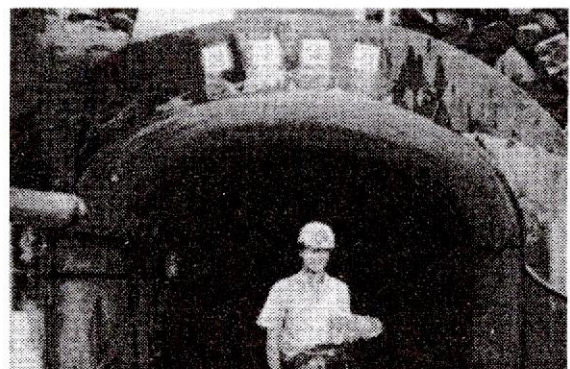


● 第6回野外見学採集会のご報告 ●

川添 晃

本年最初の採集会は今年の5月18日、大川村白滝鉱山跡（現在の白滝王国）で行われました。新緑がまぶしい好天気恵まれて、参加者も70人近くとなりました。10時40分、現地の理事長さんから鉱山の歴史や現状などについて10分ほどでお話をいただきました。次に会長から採集の方法などの説明があり、その中でとにかく光るものを探そうということになりました。そして山裾のズリにずらりと並んで鉱物の採集会が始まったのです。NHKから取材のカメラも来ていましたが、この壮観さにはびっくりしていました。

ここで少し白滝鉱山について説明しておきましょう。銅鉱の発見は1672年のことです。1914年に鉱山として本格的な創業が始まり、1972年までの58年間に6万トンの銅鉱が採掘されています。私自身教員の駆出しの頃（1961年）に教育委員会の主催する見学会に参加してここを訪れています（下図）。鉱山はまだ全盛を誇っていました。数千人の人が住み、小学校、中学校はもとより病院や映画館もありました。食料などの物資は北側の愛媛県から索道によって運ばれていました。旅館も2つあり、私は西側の2階に泊まったことを覚えています。坑道は縦横に無数に掘り下げながらこの頃には最先端は海面下にまで達していました。私のグループは愛媛県出身の若い社員の案内で、削岩機のような最先端まで行きました。キースラガーと呼ばれる黄金色の鉱床が光っていたのが印象に残っています。坑道では盛んに鉱石を満載したトロッコが動いていました。大きな岩塊をいくらでも好きなだ



けピックアップしても良かったのです。赤紫色に輝く斑銅鉱もこの時覚えました。

地上に運びだされた鉱石はまず砕いて粉末にし、それを重液に入れて選別するいわゆる浮遊選鉱法が行われていました。ぶくぶく浮かぶ泡の表面に銅の粉がいっぱい付いていました。この中にはもちろん金や銀も含まれていました。ただし含有量は非常に少なかったことはいうまでもありません。それでも長い間には金の延べ板ができたというから驚きものでした。

さて採集会の話に戻りましょう。多くの人が集まればさすがにいろいろのめずらしいものが発見されます。子供たちだけでなく大人も夢中になって探しました。特別に黄色に光るものが見つかって、もしかしたら金ではないかとわくわくしたことです。しかし白いセキエイにこすりつけてよくよく調べたら黄銅鉱でした。束の間の夢でありました。

約1時間後、発見したものをみんなの前でご披露することにしました。鉱物では最も多かったのが黄銅鉱と黄鉄鉱で、そのほか斑銅鉱、ざくろ石、磁鉄鉱、陽起石滑石、白雲母、紅れん石、かくせん石、らんせん石などでした。岩石では泥質片岩、緑色片岩、かくせん片岩、紅れん片岩などでした。鉱物の採集は初めての人も結構多かったと思います。しかし思い思いに発見した標本にみなさんが十分満足していただけたと感じています。